

未来のための選択 わたしが今できることを考えよう

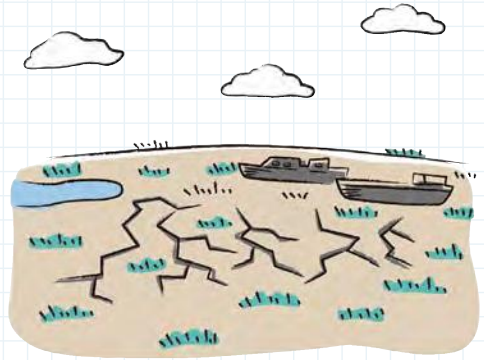
なぜ今、SDGsに取り組む必要があるのか？を知ろう

「SDGs」とは、環境問題・差別・貧困・人権問題などの地球規模の問題を解決し、持続可能な未来をつくるための国際目標です。世界の問題を自分事として捉えるのは難しいことですが、SDGsの目標達成には、私たちの暮らしに直結する課題が多くあります。一人ひとりが世界の問題を自分事であることを意識し「今、自分に何ができるのか」を考え行動することが大切です。



自然破壊問題

世界では、1990年から2015年までの約25年間で、日本の国土面積の約3.4倍の広さにあたる森林が農地や牧場などに転換されてきました。そうした農地開発による自然破壊の一例として、ウズベキスタンのアラル海地域では衣服の素材に使われる綿花栽培のための灌漑開発により、世界第4位の広さを誇った湖が1/10まで減少しています。私たちの衣服にもそうした農地開発に関連しているものがあるのかもしれません。



市の取り組み

私たちの着ている服がどこで生産されたのか、着なくなった服をどうするのかに意識を向けてもらうために、むさしのエコreゾーンではSDGs展示の一環として「衣」をテーマにした参加型の展示を実施しました。衣服の背景を見ていくことで、世界の課題に気づき、考えるための展示を今後も実施していきます。



数字で見よう

世界の毎年の森林減少面積

約 **520** 万 ha

*東京の面積(約21万9000ha)の約24倍



出典：環境省
(国際的な森林保全対策)



食料問題

現在、世界の総人口の10人に1人が飢餓に苦しみ、発展途上国では5歳以下の子どもの死因の半数以上が栄養不足によるものです。その大きな要因が先進国による食糧の搾取と言われています。実は、世界の総人口約78億人が生きるための十分な食糧が作られているにも関わらず、そのうち約3分の1が廃棄されています。

市の取り組み

市内の家庭から出される燃やすごみの量は減少しつつありますが、家庭の燃やすごみの約28%がまだ食べられるのに捨てられた食べ物「食品ロス」とみられています。市では食品ロスの削減を図るため、市内のフードバンク活動団体の支援や、クックパッド「武蔵野市の公式キッチン」で食品ロス削減レシピを紹介しています。

数字で見よう

市の燃やすごみの
1人当たりの年間排出量
(令和2年度)

146 kg

*10年前と比べて8kgの減少



水資源問題

干ばつの被害や開発による水源破壊により、世界では約 36 億人が水不足に苦しんでいます。中東やアフリカなど、水資源に起因する紛争が起きている地域もあります。「水が豊か」と言われる日本であっても、海外から輸入された穀物などには生産国の水資源が使われているため、日本国内の水資源が使われずに済んでいると言えます。使用されている水資源のリスクを、資源採取から生産、廃棄までの過程全体で考慮する「ウォーターフットプリント*」の考え方で捉えることも必要です。

市の取り組み

私たちの暮らしは輸入品に支えられています。買い物をする時に何を選ぶかで、生産国の課題の増幅、改善につながります。賢い消費について考える場として、エシカル消費に関する環境講座の開催や、廃材を利用したワークショップを実施しています。



数字で見よう

電子レンジ加熱調理品の「肉じゃが1パック」当たりの生産・廃棄にかかる水使用量



参考：環境省
(ウォーターフットプリント算出事例集)

約 **130ℓ**



地球温暖化問題

近年、自然災害が世界で頻発しています。その要因の1つとして、化石燃料の燃焼によって発生するCO₂を原因とした地球温暖化が挙げられます。自然災害以外にも、地球温暖化問題は、海面上昇が進む島しょの水没、北極圏の氷の減少が原因とされるホッキョクグマ絶滅の危険性など、島国や生態系の存亡の危機にまで及んでいます。



*ウォーターフットプリントとは：モノやサービスを消費する過程で使用された水の総量を、その水の持続可能性も踏まえて計る概念です。生産時の水の必要量を推定するものに「バーチャルウォーター」という概念もあります。

知っていますか？
世界の今

今、世界で起きている問題が私たちの暮らしとどうつながっていて、何をすればいいのかを一緒に考えてみませんか。



エコリゾート
岩本容子さん

市の取り組み

市では「2050年ゼロカーボンシティ」の達成に向け、地球温暖化対策実行計画を策定しています。また、市民の方と市が一体となり気候危機に対する行動を考える気候市民会議の開催も予定しています。このほか、クリーンセンターのごみ発電による電力の公共施設利用など、CO₂の排出削減にも取り組んでいます。

数字で見よう

日本の100年当たりの平均気温上昇



参考：気象庁
(日本の年平均気温)

1.28℃

SDGs達成に向けて

今日からできる！エシカル消費

エシカル消費とは？

SDGsを達成するために、私たちが手軽に始められる行動が、人、社会、地域、環境に配慮した消費行動「エシカル消費」です。エシカルの意味は「倫理・道徳的」。地域や世界の問題を心にとどめておくことで、日々の買い物やサービスの選択において、自然に消費行動を見直すことができます。まずは無理をせず、できることから始めてみましょう。

普段の暮らしの消費を見直してみよう

自分自身の行動に当てはまる項目をチェックしてみましょう。

チェックを入れた番号のカードを読んでみよう！

衣

- 1. セールなどでつい予定のない洋服まで買ってしまふ
- 2. 着なくなった服は燃やすごみの日に捨てている
- 3. 破れたり、傷がついたりした洋服はすぐ捨ててしまふ
- 4. 流行のデザインなら品質は二の次だと思ふ

食

- 5. 食料品をいつも買いすぎてしまふ
- 6. 冷蔵庫などに消費期限切れの食料品がある
- 7. ごみを捨てる時、トレーやペットボトルなどのプラスチック製品が多い
- 8. 買い物をする時、あまり食品の産地を見ない

住

- 9. 誰もいない部屋の電気のつけっぱなし、水の出しっぱなしなど、無駄が多いと思ふ
- 10. 再生可能エネルギーに興味があるが、何をすればいいかわからない

着なくなった服はリユースを考えよう



フリーマーケットやフリマアプリへの出品、リサイクルショップの利用など、リユースの方法はたくさんあります。また市でも資源ごみとして回収しています。

その服、本当に必要ですか？



Tシャツを1着つくるのに2700ℓの水*が必要。その場の思いつきで買ったものの結局着なかったり、数回着て捨ててしまったりするのは、資源やエネルギーを無駄にすることになります。

*5ページの「ウォーターフットプリントとは」を参照

できることから始めよう

これまでの消費をエシカル消費に変えてみよう！

今日からできる、10のエシカル消費を紹介します。小さな行動も、多くの方が行うことで大きな変化につながります



必要なときに必要な量を買おう



タイムセールなどにつられて買いつぎてしまうと、食べきれずに捨ててしまうことに。食品ロスを出さないためにも、必要なときに必要な量を買う習慣を。すぐに食べるものは商品棚の手前から選ぶ「てまえどり」に協力しましょう。

品質が良くて長く愛用できるものを



流行はサイクルが早いため、価格が優先、品質は二の次で購入していませんか。品質が悪いと買い替えの頻度も高くなり環境負荷が大きくなります。デザイン性より質の良いものを選び、長く大切に使うよう心掛けましょう。

リペアでさらに愛着のあるものに



お気に入りの服を1年長く着るだけで、日本全体で4tの廃棄量削減となり環境負荷を減らせます。服が破れたり傷がついてしまったらリペアやリメイクを。少し手を加えるだけでオリジナリティが増し、より愛着が湧きます。

プラスチック製品を減らす工夫を



適切に処分せず、まちに投棄されたプラスチックは、海へと流れ海洋汚染の一因に。また適切に捨てられているプラスチックごみも削減が求められています。日ごろからマイボトル、エコバックを持ち歩くなど削減を心掛けましょう。

エシカル消費に関連するSDGs



以下のゴールにも関連しています

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう

食料品の在庫・消費期限をチェックしよう



根菜類やレトルト食品など、保存性が高いものほど、うっかり放置してしまいがちに。定期的に、冷蔵庫や食品庫にある食料品の在庫や消費期限を確認するようにしましょう。

環境負荷の少ないエネルギーを選ぶこともエシカル



日本のCO₂排出量で最も多いのが発電に伴うものです。家庭で使う電力を太陽光や風力などの自然の力で補充される「再生可能エネルギー」に切り替えれば、環境への負担を減らすことができます。

無駄な資源エネルギーの消費を減らそう



化石燃料によるエネルギーに依存している日本のCO₂排出量は多く、その量は世界で5番目。使わない部屋の電気は消す、LEDに取り換える、適切なエアコン使用など省エネに努めましょう。省エネ家電への買い替えも有効です。

「地産地消」が環境負荷軽減や地域活性化に



地元で作られている野菜や食品を買うこと（地産地消）は、遠くの産地から食品を運ぶよりも輸送エネルギーがかからず、CO₂削減に貢献できます。さらに地元生産者の支援にもなり、地域活性化にもつながります。

環境に配慮した、暮らしの気づきを提案します



むさしのEco reゾート

環境について、知りたい学び、
楽しい学びがたくさんあります

旧クリーンセンターの一部を再利用した環境啓発施設です。館内には、収集車がピットにごみを投下していた大空間をそのまま活用したプラットホームや、ものづくり工房、学習スペースなどを設け、体験型イベントやワークショップ、講座など、幅広いプログラムが行える設備が整っています。誰もが楽しく環境について考え、学び、体験できる場となっています。



▲1000㎡もある大空間の「プラットホーム」はワークショップなどで活用



▲廃材を利用したものがづくりが体験できる「ものづくり工房」



▲IH調理器具付きミニキッチンが完備されたカフェスペース

むさしのEco re ゾート

所在地：〒180-0012 緑町3-1-5 (Tel.0422-60-1945)

開館時間：午前9時30分～午後5時

休館日：火曜日、祝日（月曜日が祝日の場合は月曜日開館、水曜日休館）

詳細は公式ホームページをご確認ください▶



さまざまなイベント・講座を開催しています

市主催の環境イベント「むさしの環境フェスタ」をはじめ、昨年の6月には環境月間にあわせて「環境展」を開催。同時期に募集した「緑のカーテンレポーター」には152名に参加いただきました。市内の各所でポップアップイベントも開催しています。令和4年度は、「水の学校」修了生とタイアップした水に関するSDGs展示や、「環境の学校」をはじめとしたさまざまな講座を開催する予定です。



▲来館者へのアンケートをもとにした「環境展」の展示



▲「環境の学校」の修了生も制作に携わったSDGs展示

参加者・来館者の声を紹介します

■循環型社会について話し合い、自分では思いつかないようなアイデアがあったり、もっと自分たちでできることがあると知ることができてよかった。

環境の学校 Greenプロジェクト 受講生

■廃材は宝物ですね、娘がとっても楽しそうに遊んでいました。 「環境展」体験者

■展示物が手作りされているものと、きちんとデザインされているものがあって、大人も子どもも楽しめる施設と感じました。 来館者

■絵本がたくさんあってうれしいです。とてもすてきな施設なので、家族にも教えてあげてみんなで使いたいです。 来館者

エコreゾート
岩本容子さん



開館2年目を迎え、環境に関する活動の輪が広がっています。昨年開催した環境問題を学ぶ講座「環境の学校」と「環境の学校 Greenプロジェクト」の修了生のうち17名に、Eco reゾートの事業や運営をサポートする「プレサ

ポーター」として登録いただきました。

同講座は令和4年度も受講生を募集します。環境について学びあうことで、Eco reゾートを人と人がつながっていくコミュニティの場にしていきたいです。